

院長の近況報告(2012年10月1日)

1. 9月14-16日に金沢で第60回日本心臓病学会学術集会がありました。出席者は4000人を越えたようでした。パネルディスカッション「心不全とアルドステロン」では演題「起立不耐症患者におけるレニン-アルドステロンパラドックス」を発表しました。満員に近い会場で、慢性疲労症候群、起立不耐症が、循環器の病気として認識でき、理解可能であることをアピールすることができました。出席の先生方からの質問も多く、また、終わってから多くの関心を寄せられ、良かったと思います。

このほか3演題も口演しました。全て、慢性疲労症候群／筋痛性能脊髄炎、起立不耐症の関係した演題です。やや、閑散とした会場での発表もありましたが、概ね、出席の先生方の関心も高く、過去の寂しいポスター発表などの状況に比べると手応えが感じられるようになってきました。

来年3月の日本循環器学会（心臓病学会より規模が更に大きい）でもシンポジウム「循環器分野の医療経済評価と政策課題」での同様の演題発表が既に採択されており、楽しみです。Fundamental Economic Loss, Marked Reduction of Functional Capacity and Circulatory Impairment in Patients with Chronic Fatigue Syndrome and Orthostatic Intolerance という題名です。なお、規定で題名と抄録は英語になっていますが、発表は日本語です。

2. 最近、評判の、「分かりやすい内科学」（医師向けではなく、看護師、検査技師、学生など、いわゆるコメディカルといった人たちを対象とした平易で簡便な医学書）の改訂版発行の準備が進んでいます。今回は、「低血圧、失神」の項を、新たに担当することになりました。起立不耐症や慢性疲労症候群とも関係の深いテーマでもあり、斬新な視点から、病態を捉え易くするよう、また、認識が広まるよう、10月末の締め切りに向けて熟考を開始しています。

3. 現在のところ、年内中は休診の予定はありません。